週刊「中国・アジア」ダイジェスト

2012.04.23～04.27

記事の詳細は、情報検索サービス『キジサク』でご覧になれます

＊記事は東京発行・最終版

CHINA

4月23日（月）

■日本ケミコンが設計・開発拠点
アルミ電解コンデンサーなど

日本ケミコンは、2012年中に、中国に設計・開発拠点を設立する。アルミ電解コンデンサーやキャパシターなど製品や材料開発を強化。中国で材料調達、製品開発、販売まで一貫体制を築く。（８面）

■ＪＳＲ、医薬品工場を稼働
診断薬・診断薬の中間体

ＪＳＲは、診断薬メーカーの北京万泰生物薬業と捷和泰（北京）生物科技の工場を稼働した。抗体を用いた高感度検査手法であるラテックス診断薬や化学発光診断薬の中間体を開発、製造。（10面）

4月24日（火）

■ホンダ、中国に新工場
年24万台／2014年稼働

ホンダは、中国に自動車生産の新工場を建設する。現地合弁会社の広汽本田汽車の増城工場の敷地内に新設し、2014年に稼働させる。年産能力12万台で立ち上げ、将来は24万台まで増やす。（７面）

■マツダ、ＳＵＶフルライン化
中・大型を投入

マツダは、2013年にかけてＳＵＶ２車種を中国に投入する。中型車「CX－7」を今年末から現地生産、大型「CX－9」も来年初頭に発売する。「CX－5」と合わせ、ＳＵＶをフルラインアップ。（７面）

■中国専用ＨＶを公開
トヨタ／北京モーターショー

トヨタ自動車は、北京モーターショーで、中国専用ＨＶのコンセプトモデル「雲動双擎」を世界初公開した。中国・常熟市の研究開発センターで開発中のＨＶシステムを搭載している。（７面）

■家電リサイクル、年100万台
ＤＯＷＡエコ／３拠点体制

ＤＯＷＡエコシステムは、中国で家電リサイクル事業を強化する。蘇州、天津に続いて江西省で中国３拠点目となる子会社を操業する。中国での処理能力を25％増となる年100万台に。（13面）

4月23日から中国・北京で開かれた「北京モーターショー」（ブルームバーグ）

■カネヒラ鉄鋼、特殊鋼を販売
現地進出の日系向け

カネヒラ鉄鋼は、中国に構造用鋼などの特殊鋼を販売する100％出資の現地法人「佛山可内希楽鋼鉄貿易」を８月に設立する。現地進出する日系企業向けに特殊鋼を販売する。（13面）

■損保ジャパン、車保険を通販
個人向け／年度内

損保ジャパンは、2012年度内に中国の自動車保険の通信販売を始める。既存の進出エリアで個人向けに自動車保険商品を販売する。経済成長が見込める現地市場を早期に取り込む。（21面）

4月25日（水）

■群馬で医療観光
ヤマダ電機など／中国人富裕層にマト

ヤマダ電機、ワイテック、医療法人真木会など群馬県の企業や病院が、医療観光を柱にした中国人富裕層の誘致に乗り出す。がん検診や温泉、家電ショッピングなどのツアーを独自に企画。（１面）

■東京精密、２拠点新設
計測機器／保守サービス

東京精密は、中国での精密計測機器事業を拡大する。2012年内に現地で営業と保守サービスを担う事務所を２カ所新設し、計15拠点体制とする。３次元測定機などを拡販する。（７面）

10万㎡を拡張する香港科技園の研究施設

■香港、日系誘致で投資
500億円で研究施設

香港政府系の科学技術振興機関が、海外企業受け入れ施設を充実させている。環境や電子機器関連が中心の香港科技園は約500億円を投じ研究施設を建設。優秀な研究開発企業を呼び込む。（３面）

■テクニスコ、中国で生産
スマホガラス／月100万枚

テクニスコは、中国でスマートフォン向けカバーガラス一体型タッチパネルの生産に乗り出す。４月中に月産35万枚で生産を始める。2014年までに月産70万―100万枚に引き上げる。（９面）

■日本の花、中国で販売
オークネット／花きサイトと提携

オークネットは、花きポータルサイト「花集」を運営する豊島控股集団と業務提携した。花集内に日本産花きの専門サイトを設け、中国では珍しい日本産の切り花や鉢花を紹介・販売する。（17面）

■第一三共、医薬品卸を買収
後発薬の販売を強化

第一三共は、中国でジェネリック医薬品の販売などを強化する。上海欣生源医薬集団から医薬品卸事業子会社を買収。後発薬を扱うグループ会社の豊富な後発薬などを自社流通網で扱う。（17面）

■みずほコーポ銀、元建て金融債
129億円／資金調達を多様化

みずほコーポレート銀行は、中国のインターバンク債券市場で人民元建て金融債を発行した。資金調達を多様化。発行金額は10億元（約129億円）。同行が中国で金融債を発行するのは初めて。（19面）

■中国現法を増資
オリエンタルエンヂ／拠点拡大

オリエンタルエンヂニアリングは、中国現地法人の資本金を２倍の２億6800万元とした。中国での熱処理需要の高まりに対応して拠点拡大やＭ＆Ａに機敏に対応できるようにする。（22面）

4月26日（木）

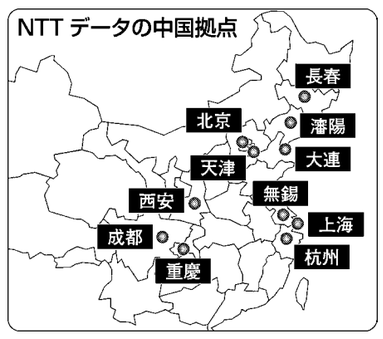
■産ロボ、単品受注
平田機工／中国電機メーカーに照準

平田機工は、ロボットや関連製品の単品受注に乗り出す。中国の電機メーカーによる自動化ニーズの高まりに伴い、現地生産システムメーカーなどからの需要があると判断した。（７面）

■ＮＴＴデータ、中国を深耕
統一ブランド浸透狙う

ＮＴＴデータは、中国市場を深耕する。「ＮＴＴデータチャイナ」を設立し、関連会社など18社を統括し意志決定を迅速化。統一ブランドを確立し、全土に浸透させていく。（９面）

NTT データの中国拠点



■エイアールブイが技術指導
亜細亜集団に／セラメッキ

エイアールブイは、中国の素材や電子部品関連などの企業グループの亜細亜集団と技術提携した。エイアールブイが、セラミックスへのメッキや半導体用放熱シートの量産を技術指導する。（11面）

■ポリ乳酸繊維で砂漠固定緑化
東レ／中国学会と契約

東レは、自社のポリ乳酸繊維「エコディア」で砂漠固定緑化を中国で実施する契約を中国治沙ギョウ沙業学会と結んだ。砂移動防止材の設置、植樹する植物を選定、実験成果をまとめる。（11面）

■日立化成、中国で生産
リチウム電池負極材

日立化成工業は、中国で携帯情報端末向けリチウムイオン二次電池用カーボン負極材の量産を始めた。中国子会社に生産工場を新設した。二次電池メーカーは生産拠点を中国に移している。（11面）

■資産運用会社に出資
三井住友銀行／富裕層に投信

三井住友銀行は、中国の中堅資産運用会社「中郵創業基金管理」の株式24％を取得し資本参加した。中郵基金グループの営業網を活用し、投資信託商品などを富裕層や年金基金に売り込む。（17面）

■中国金融企業と覚書
証券保管振替機構／定期的に会合

証券保管振替機構は、中国の中央国債登記結算と情報交換や相互協力に関する覚書を締結した。日中両国の金融市場発展やクロスボーダー投資促進に向け定期的な会合を開く。（17面）

4月27日（金）

■中国でＡＴＭ増産
日立オムロンターミナル

日立オムロンターミナルソリューションズは、2012年度に中国で、ＡＴＭを増産する。中国での旺盛なＡＴＭ需要に対応する。現在の２万台から5000台増の２万5000台に増やす。（９面）

■ゴム加工用分散剤、青島で増産
ラインケミー青島／年9000㌧

独ランクセスグループで中国のラインケミー青島は、2013年８月をめどにゴム加工向け分散剤の生産能力を６―８割増の年約8000―9000㌧に高める。自動車用タイヤなどの需要増に対応。（11面）

TELOP

■オムロンがＳＩ合弁
マシンオートメ（24日８面）

■蝶理、中国軸に事業拡大
新中計／売上高2600億円（24日17面）

■ホクショー、上海に現法
物流自動化機器（25日８面）

● ひと

中国の〝芽〟育つ

「中国で現金自動預払機（ＡＴＭ）事業の芽が出るまでに10年ほどかかった」と感慨深げなのは、ＯＫＩ社長の川崎秀一さん。「海外はプリンターの販売網を持っている。まだまだ売れる商材があるはずだ」と春の芽生えから夏の新緑に目を向ける。（23日＝８面）

漁師も設備投資

「中国漁船の近代化が顕著になってきた」と、古野電気社長の古野幸男さん。水平方向の魚群を探査する装置ソナーが同国で売れ始めたのがその理由とか。中国で魚介類の消費が急増し「漁師の収入も増え、設備投資意欲が高まっている」のは追い風。（24日＝９面）

需給ギャップは解消される

「為替に加え、中国で印刷用紙の投資が活発になり需給ギャップが生じて輸入紙が増加」と、日本製紙連合会会長の篠田和久さん。「大規模増設はないだろう、古い設備も止めている。一方で紙需要はまだ伸びるだろう」。中国の需給ギャップは解消されると予測。（25日＝13面）

自動車の海

「自転車であふれていた街は、いま自動車の海と化している」と、上海の発展に驚くランクセス化学中国ＣＥＯのマーティン・クレマーさん。中国の失速を懸念する向きも。それでも「これだけ大きな規模で、かつ年７―８％の成長を見込める市場はほかにない」。（26日＝11面）

ASIA

4月23日（月）

■「77㎞」ー鉄壁の守り
防水壁／ロジャナ工業団地

鉄壁ならぬ、コンクリート壁の守り―。2011年秋の大洪水で深刻な被害を受けたタイのロジャナ工業団地で、団地を囲む総延長77㌔㍍の防水壁を作る工事が進んでいる。８月末完了する。（１面）

防水堤で周囲を囲む工事が進む（ロジャナ工業団地）

■東アジアのエネ政策　提言
インドネシアに拠点／政府

政府は、中国やＡＳＥＡＮなど、日本を含む東アジアのエネルギー政策を提言する専門研究機関を立ち上げる。拠点はインドネシアに置く。日系が強い分野のインフラ輸出拡大につなげる。（１面）

■三菱自、東南アを上方修正
小型車などが好調

三菱自動車は、東南アジア地域の事業計画を拡大する方向で見直す。決算発表をめどに公表する。現在、2015年度に東南アジアで年間販売36万台が目標。小型車などが好調で上方修正する。（６面）

■海外の基幹システム統合
ＮＴＴデータ／150子会社

ＮＴＴデータは、2014年４月までに、海外子会社の基幹システムをマレーシアのＤＣに統合する。海外子会社が約150社に上り、基幹システムの再構築を通じて海外の事業基盤を整備する。（９面）

■ＬＩＸＩＬ、ベトナムに新工場
住宅用サッシ／年３万㌧

ＬＩＸＩＬは、ベトナム・ドンナイ省に住宅用サッシなどアルミ製品を供給する現地法人を設立した。2013年11月には工場が稼働し、年約３万㌧を主に日本に供給する。約300億円投資。（13面）

■日本仕様のスマホ
台湾ＨＴＣ／ＫＤＤＩが販売

台湾ＨＴＣは、最新スマートフォン「ＨＴＣ　Ｊ　ＩＳＷ13ＨＴ」を５月下旬に投入。日本向けに開発した。日本固有の映像サービスや電子決済に対応。ＫＤＤＩと沖縄セルラーが販売。（９面）

乃木坂46が「ＨＴＣ　Ｊ」をアピール

4月24日（火）

■スズキ、インドに第２工場
２輪車年50万台／110―125cc

スズキは、2014年にインドのハリアナ州で２輪車の第２工場を新設する。新工場の生産能力は年間50万台で、既存工場と合わせ年95万台となる。増産するのは現地で主流の110―125cc。（３面）

■メイドー、インドネシアに進出
ボルト月100㌧／トヨタ増強

メイドーは、インドネシアにボルト工場を2013年春の稼働をめどに建設する。月産能力は約100㌧。主要供給先のトヨタ自動車グループは現地で生産能力を増強。現在は日本から輸出。（７面）

■スズキ、多目的車投入
インドネシア／年５万台

スズキは、インドネシア子会社が３列シート小型車「エルティガ」を発売した。現地乗用車の６割を占める多目的車で初年度は５万台の生産・販売を目指す。約125万―約145万円。（７面）

■貴金属リサイクルの新工場
ＤＯＷＡエコ／シンガポール

ＤＯＷＡエコシステムは、日本、中国に次いでシンガポールに貴金属のリサイクル工場を稼働。金、銀、パラジウムを回収・精製する。現地は東南アジア最大の廃電子機器市場。（13面）

■大和リースが海外進出
中・韓・台で検討／プレハブ建築物

大和リースは、海外進出の検討に入った。2012年度から市場調査を始め、２、３年後にもプレハブ建築物の販売などに乗り出す。進出先としては中国、韓国、台湾、東南アジアなどを検討。（17面）

4月25日（水）

■計測機器、アジア進出を支援
知的基盤分野／経産省

経済産業省は、計測機器メーカーのアジア展開を支援する。企業の研究開発活動の基準となる知的基盤分野でアジア地域との連携を強化。日系企業もプロジェクトに参加できるようにする。（１面）

■インドネシアとタイに進出
日清紡ブレーキ／摩擦材

日清紡ブレーキは、インドネシアとタイに自動車のブレーキに使う摩擦材の工場を新設・増設を検討。自動車メーカーの海外生産の拡大に伴い、受注量が既存の生産能力を超える見通し。（６面）

■地熱発電の蒸気供給設備を受注
ＪＦＥエンジ／インドネシア

ＪＦＥエンジニアリングは、インドネシアで建設中のパトハ地熱発電所向けに蒸気供給設備のＥＰＣ業務を受注した。受注額は５億円程度。現地法人が詳細設計から調達、建設まで。（７面）

■東芝、タイに新工場
半導体組み立て／洪水で移転

東芝は、タイのプラチンブリ県にディスクリート半導体の組立工場を建設する。既存工場が洪水で操業停止に追い込まれているため、移転する。来年の４―６月の量産を目指す。（９面）

■ＪＮＣ、タイで不織布生産
おむつ向け／中国工場能力不足

ＪＮＣは、タイ・ラヨン県におむつなど衛生・生理商品向け不織布の製造販売子会社を設立する。2013年末から生産。東南アジア向けをも担う中国工場の供給能力が追いつかなくなった。（13面）

4月26日（木）

■マツダ、タイ工場を増強
年24万台／フォードと共同

マツダと米フォードは、タイで共同で持つ４輪車工場の生産能力を増強する。工場全体の年産能力は22万台から24万台にアップする。両社とも最近投入したピックアップトラックが好調。（２面）

■新日鉄、ポスコを提訴
方向性電磁鋼板の技術

新日本製鉄は、方向性電磁鋼板の同社技術に関し、韓国のポスコとポスコ日本法人を相手に、1000億円の損害賠償や鋼板の製造・販売の差し止めなどを求め民事訴訟を東京地方裁判所に提起。（３面）

■日本電産、インドに新工場
車・家電向けモーター

日本電産は、インドのニムラナ工業団地に新工場を建設し、自動車や家電向けモーターを生産する。2013年12月に稼働する予定で、総投資額は約100億円を見込む。（８面）

4月27日（金）

■洪水復旧の〝現場力〟
エフテック／ホンダ増産と歩調

日産1000台のフル操業に入ったホンダのタイ工場。179社の現地部品メーカーの努力が支える。足回り部品のエフテックはその１社。洪水復旧でみせた底力を生かし、事業拡大を狙う。（５面）

■クボタ、堺で代替生産
ディーゼル用シャフト

クボタは、堺臨海工場に仮設した横型ディーゼルエンジン用クランクシャフトの機械加工ラインで、タイ向け製品の代替生産に乗り出した。タイの組み立て工場が再開したことに伴う措置。（８面）

■ＤＣ省電力で共同研究
東芝／シンガポール国立南洋理工大学

東芝は、モジュール型ＤＣ向け外気空調システムの熱帯地域での運用について、シンガポール国立南洋理工大学と共同研究を開始した。1000㌔㍗規模のＤＣで年間消費電力33％減、二酸化炭素排出量2800㌧を削減できる。（９面）

次回は―
５月７日（月）は新聞休刊日ですので、「中国・アジア ダイジェスト」面の次回は５月14日（月）に掲載します。

TELOP

■タダノ、タイに製造子会社
クレーン年2000台（23日７面）

■インドネシア株式を取り扱い
ＳＢＩ証券／30銘柄（24日21面）

■三菱重工、インド子会社を増資
エンジン3.7倍（25日７面）

■韓国ＳＤＫ製の乾燥装置投入
桜井グラフィック（25日８面）

■インドネシアに鋼管で合弁
新家工業・阪和興業（25日13面）

● ひと

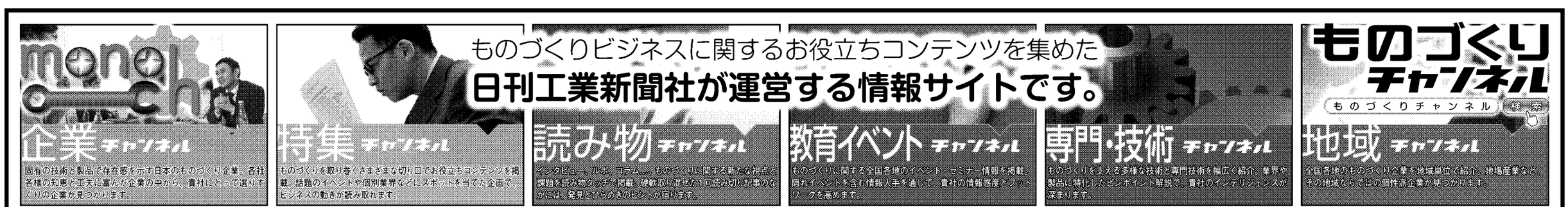
ブレーキは踏まない

「海外を中心に伸ばす」と青写真を描くのはアドヴィックス社長の川田武司さん。ブレーキ製造を手がける。「海外での供給体制整備が遅れている」のが課題。そのためタイ、インド、中国と矢継ぎ早に工場を新設する。海外展開のブレーキは踏まず、スピードアップ。（23日＝６面）

息子たちも成長

ミャンマーＤＣＲゼネラルマネージャーの小林政彦さんは「ミャンマーへの赴任は息子たちを成長させた」と説明する。同国で銀行などの業務アプリケーションを開発する。「少人数制の日本人学校で学べただけでなく、国際感覚が身に付いた」という。（23日＝22面）

ものづくりビジネスに関するお役立ちコンテンツを集めた
日刊工業新聞社が運営する情報サイトです。



日刊工業新聞社　電子メディア事業室　〒103-8548　東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL. 03-5644-7090

http://mono-ch.nikkan.co.jp/m/　mono-ch@nikkan.co.jp